

## 【報告】

## 子どもへの禁煙支援 その後

日本禁煙科学会 高橋 裕子

昨秋の第20回日本禁煙科学会学術総会のシンポジウムで 子どもへの禁煙支援について語らせていただきました。ここに自分の経験をお伝えすることは今までしてきませんでしたが、その事後報告をさせていただきます。

この3月1日、奈良県下の公立高校の卒業式がおこなわれます。奈良県と奈良市が実施している「未成年者禁煙相談支援事業」で禁煙した子どもたち（高校生）が7名、卒業してゆきます。背景も学校も家庭環境も異なる子どもたちですが、7名全員が、禁煙して卒業してゆきます。

一番長くフォローした生徒は、高校1年生の時からです。本人のがんばりはもちろんですが、それを支えるべく毎週曜日を決めてその生徒に声をかけ、励ますことを続けてきてくださった各学校の先生方、そしてご家族のみなさまの努力、さらにはそれをすべてコーディネートくださってきた保健所のみなさんのご尽力あってのことです。

昨夜は、高校2年生の1学期に補導されて学校に喫煙が知られてしまい学校から保健所を通じて私のところに連れてこられた生徒さんの最後の面談をおこないました。奈良県・奈良市の未成年者禁煙相談支援事業という社会支援のシステムでは、私のところに、本人だけでなく、家族と学校、そしてときに保健所からもいっしょに来られます。昨日は、本人と学校と家族（お父さん）でした。

禁煙どうでしたか？「はい、続いています」

呼気中CO濃度測定では2ppm。数値をみて学校の先生は、「信じていましたが、数字を見せていただくとうれしいですね」とおっしゃって、お父さんは安堵で目頭を押さえられました。

2年生のときに喫煙が見つかって学校で指導を受けて以来、ご家族も本人も揺れたと思います。多くの子どもたちは、「たばこをやめる苦勞をするくらいなら、学校をやめる」といいます。目先の苦勞しか見えないのです。それを家族が励まし、学校が励ましてくださり、子どもの揺れる心をささえて私のところまで連れてきてくださいます。学校も揺れません。

—なんで一人の生徒のためにそこまでしなければならないのか

—退学になってもそれは本人の問題じゃないか

それを保健所が支えてくださるのです。

そしてようやく私との面談になっても、最初に来たときには、子どもたちの多くは私とも、家族とも、学校の先生とも目をあわせようとしません。ふてくされている子も、かたくなになっている子も、顔を上げようとしないう子もいます。しかし、学校の先生方が毎週声をかけてくださる中、固くなっている子どもたちのところが少しずつつかされてゆき、禁煙が続くようになってゆくのをずっと見せていただけてきました。

子どもたちの禁煙は、薬を渡して3か月で終わり、という大人への禁煙支援とは少し異なります。どの子どもたちも、禁煙をつづけたい、学校の先生や家族の期待に応えたいと努力しようとします。どの子供たちも、本心では禁煙したい、大人の期待に応えたいのです。しかし、禁煙するつらさに加えて、友達関係やバイト先で出会う誘惑も多い中、その努力が続かなくなることも多くあります。

それを周囲が励まして支える、それも1か月2か月ではなく年余にわたって支える、それが子どもたちへの禁煙支援であり、支える仕組みのひとつとして私も用いられてきたことを感謝しています。

昨日、彼は「禁煙できたことがこれからの人生の強みになると思いますので、頑張ってたかったと思います」といいました。最初に来たときの暗い顔とは別人のように、明るくはきはきと語り、高校卒業後の自分の人生をしっかりと歩む決意を伝えてくれました。

昨日、私から彼に伝えたことは、（私のところを卒業する全員に伝えていることですが）自分の禁煙は自分だけの力でできたのではない、家族と、学校と、そして保健所のみなさまの熱い応援があつてのことであり、それを決して忘れてはいけない ということでした。彼はちから強くうなづいていました。

禁煙は多くのものをもたらしてくれます。とくに子どもたちの禁煙はそうです。と同時に、この支援に漏れてしまう子どもたちが多くいることを思われます。

どうか日本中の、たばこがやめられなくてつらい思いをしている子どもたちに、支援の手が届きますように。この子がそうだとわかる目が私たちに与えられますように。そして何より、子どもたちが吸い始めてしまうことがありませんように、大人の喫煙を減らしなくす、その努力をまだまだ続けなければならないことを思われました。

第21回の学術総会（岡山）では、妊婦さんや子育て中のお母さんの禁煙が、そして第22回の学術総会（金沢）では、子どもたちへの喫煙防止がテーマとして取り上げられる予定です。こうした学術総会だけでなく、KKにおられるおひとりおひとりが、今、禁煙普及のためにしてくださっている努力が、子どもたちを守ることにつながることを確信して、前進を続けてまいりましょう。

以上、簡単なお報告でした。